

番組審議会

第12回 BS よしもと番組審議会

■開催年月日 : 2024年10月28日(月)

■開催場所 : BS よしもと株式会社 会議室

■出席した委員(敬称略)7名中7名出席 *あいうえお順

大原鶴美 (プロフェッショナル コミュニケーションスキル マスター・トレーナー)

川上和久 (麗澤大学教授)

久保博 (一般財団法人 日本スポーツ推進機構(NSPO) 理事)

品田英明 (元 味の素 AGF 株式会社代表取締役社長)

清水義次 (建築・都市・地域再生プロデューサー

株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役) *リモート参加

竹中ナミ(ナミねえ) (社会福祉法人プロップ・ステーション理事長) *リモート参加

山田奈美香(山田・尾崎法律事務所 弁護士)

■議題

1.開会の辞 (審議委員長)

2.開会の挨拶 (稲垣社長)

3.編成関連の報告(10月改編他 編成動向、ジャンル種別・比率報告)

4.視聴者からの反応の共有(コールセンターレポートより)

5.番組審議

対象番組:「発信 Live ジモトノチカラ!」9月19日(木)放送分

6.閉会の挨拶 (泉取締役)

7.閉会の辞 (審議委員長)

8.事務局からの連絡

川上審議委員長による開会の辞に続き、社長 稲垣より、「今回は地方創生を主軸とした7月改編の目玉番組である『発信 Live ジモトノチカラ!』を審議いただくにあたり、忌憚ないご意見をいただきたい」という挨拶に続き審議会をスタートした。

■審議の経過の概要等

1.編成関連の報告

○金田専務兼編成制作局長より、10月改編等の編成動向について、以下のポイントについて説明を行い、理解された。

- ① 10月改編については、7月に大きな改編を行ったばかりであるため、スポンサー動向による番組変更や、単発番組枠のラインナップ変更など、細かい変更はいくつかあったものの、大きな編成変更は実施しなかった。
- ② 今回の審議番組「発信 Live ジモトノチカラ！」を始め、7月の改編でスタートした新番組は、概ね視聴量に対して好感触を得ている。各年代別の個人視聴量が増加傾向にある番組が数多く出てきているため、更なる視聴量アップのための施策継続が必要であると感じている。
- ③ 局の知名度アップのための施策の1つとして始めた『BS よしもと YouTube 公式チャンネル』の登録者数が10万人を超え、在京キー局系5局のBS放送局が運営するYouTube登録者を上回ることができた。次の段階としては、BSイレブンのYouTube公式チャンネル登録者数31万人を目指している。

○続いて、編成運行責任者より、本年4月から9月までのジャンル種別・比率報告について、放送実績データを基に行い、CM放送時間総量の設定基準が基準内に保たれていることを含め説明し、全審議委員に確認された。

審議委員からは、CM枠の増加予定、及びBSよしもとの認知度を上げるための施策についての質問があり、稲垣社長と金田専務兼編成制作局長より、それぞれについて以下のように回答し、理解された。

- ・CM枠については、現状よりまだ数パーセント増加できる余地があるが、単価設定を慎重に検討しつつ枠を増やしていく方針である。
- ・局の認知度向上のための施策については、宣伝コストを抑えつつ、YouTubeを始め、X等のSNSでの番組出演芸人の発信力も活用した番組毎の情報発信や、劇場での告知にも取り組み更なる認知度向上を試みている。

2. 視聴者からの反応の共有（コールセンターレポートより）

考査部より、7月～9月中にコールセンターに寄せられた視聴者からの意見についてのサマリーを報告し、全審議委員に確認された。

3. 番組審議

対象番組：「発信 Live ジモトノチカラ！」 9月19日（木）放送分

初めに、大阪担当番組チーフ・プロデューサーから番組概要についての説明を行い、続いて審議委員長による進行で審議を行い、各審議委員から寄せられた質問については番組プロデューサーが応答する形式で番組審議を行った。

① 各審議委員からは、以下のような意見が寄せられた。

- ・構成・企画、バラエティに富んだ MC のキャスティングのバランスが良く、住みます芸人のレポート力に以前にも増して安定感が感じられ、これまでの生放送の経験値が活かされた、最初から最後まで楽しく見ることができる番組である。

- ・バンコクからの生中継では、地元根付いた“住みます芸人”が、ネイティブ並みにタイ語を駆使して、地上波の番組では取り上げられないような珍しいスポットを、じっくり時間をとってレポートしていて大変良かった。

- ・スマートフォンによる自撮り風のカメラワークに独特の味があり、時折中継回線のトラブルがあったものの、応援したくなるような微笑まじさが感じられ、好感が持てた。また、中継が乱れた場合の VTR の切り替えなどの工夫も感じられた。

- ・その土地の地図や地名等の補足があると尚理解しやすくなり、良いのではないか。また、中継時の現地の画にワイプが被って見づらい場面もあり、視覚的な改善ができないか。

- ・他の曜日にも視聴した際に、オープニングトークが長すぎると感じる回があった。

- ・宮崎県の特集に、昨今の劇的な変化の渦中にある様子も紹介されたら尚良かった。

- ・ゲストのトークの内容にも、その日の特集の話題に触れられたら尚良かった。

- ・紹介されるその土地や施設、法令についての情報に信憑性が持てるよう事前のリサーチの必要性が感じられた。

その他、番組の感想以外の意見として、番組や局の認知拡大に繋がるように、各自治体との連携を深め、各自治体の持つ媒体での告知の活用や、特集した観光地動画を切り出して YouTube で展開してはどうか、といったプロモーションについての意見も述べられた。

上記の番組についての意見に対し、大阪担当番組チーフ・プロデューサーから以下のように説明を行い、理解された。

- ・オープニングトークについては、中継先のトラブル解決に必要な時間確保のため、トークを伸ばすケースもある

- ・地図やテロップでの情報や、ワイプの位置等の視覚的な見せ方についても今後工夫していきたい

- ・YouTube への切り取り展開は、これまで何度か試みたこともあるが、若い視聴者を意識した発信を継続していきたい

また、地方自治体と連携したプロモーションの提案については、金田専務兼編成制作局長と地域推進・事業局、プロモーションの各責任者より、現状の活動状況を紹介し、今後も特集先の自治体との連携や劇場告知等の活用により、各地からの告知を強化していきたいとの説明を行い、いずれも各審議委員に理解された。

4.閉会の挨拶

最後に事務局より次回の開催時期を確認後、泉取締役より、一事業一企業の例として、埼玉県の訪問看護ステーションが単月黒字化した事例、「市町村長うた自慢まち自慢」のコーナーには239市町村長が出演し、各地域の売り上げにも貢献していることが報告された後、審議委員長は閉会の辞をもって審議会を閉会した。

■現在のBSよしもと審議会委員（敬称略）

※2024年10月現在

川上和久（委員長／麗澤大学教授）

大原鶴美（副委員長／プロフェッショナル コミュニケーションスキル マスター・トレーナー）

久保博（一般財団法人 日本スポーツ推進機構（NSPO）理事）

品田英明（元 味の素 AGF 株式会社代表取締役社長）

清水義次（建築・都市・地域再生プロデューサー/株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役）

竹中ナミ（ナミねえ）（社会福祉法人プロップ・ステーション理事長）

山田奈美香（山田・尾崎法律事務所 弁護士）

以上